



税への純粋な興味から 憧れの税務職員に

野原 椋也 Ryouya Nohara

税務職員

令和元年採用

四日市税務署 資産課税部門

Q. 税務職員を志したきっかけは？

私は高校卒業後に、地元の金融機関へ就職しました。当時の職場では、お客さまから税金について聞かれることが多く、次第に「相続税とは何だろう?」「法人税とは何だろう?」と興味を持つようになりました。私なりに税金について調べていくうちに、国民の生活を支える税金を扱う税務職員に憧れるようになり転職を決意しました。



Q. 現在の仕事内容は？ やりがいを感じるときは？

相続税や贈与税などの税目を取り扱う資産課税部門で、税務調査や申告相談事務に取り組んでいます。税務調査では、適正公平な課税の実現のため申告内容の誤りを指摘したり、不正を行う納税者の申告を正しています。また、確定申告の時期には税務署が一丸となって、多くの方の確定申告の相談に対応しています。

私たちは、「申告をすべきであるのに申告をしていない納税者」や「申告内容の誤りが想定される納税者」に対して調査を行います。ときには税金の仕組みが複雑で困難な調査を行うこともあります。先輩や上司の指導を受けながら、調査を進め、自分で検討した内容を納税者や税理士へ説明することで、相手方の理解が得られたときは、とてもやりがいを感じます。



Q. 採用前のイメージとのギャップは？

税務職員は国の財政を支える税金を扱う職業のため、採用前はもっと堅い雰囲気想像していました。しかし、実際は職場内の雰囲気はとても明るく、和気あいあいとした環境で業務に取り組んでいます。グローバル化やICT化が進む昨今は、暗号資産やAIなど、新しい知識の習得が求められます。さらに複雑化するであろう未来の社会に対応していくため、自己研さんに励んでいきたいです。



メッセージ Message

税務の職場に必要なのは、強い正義感と使命感です。真っすぐな気持ちで入庁すれば、充実した研修制度の中で共に切磋琢磨できる同期たちと出会い、専門的な知識を習得し、社会を支える税のプロフェッショナルになれるはず。いつの日か皆さんと一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。